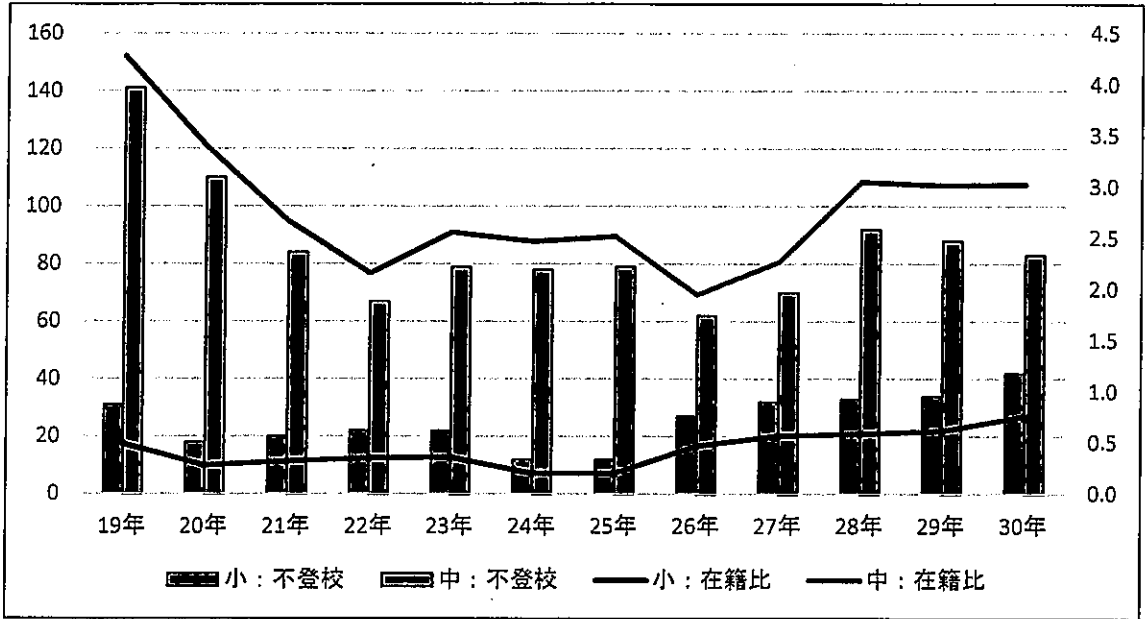


1 不登校児童・生徒数の推移(平成19年度～平成30年度)



- 平成30年度不登校の小中学校合計は125人で、前年比+3名。
- 小学校の不登校は42人で、前年比+8名。
- 中学校の不登校は83人で、前年比△5名。

2 不登校の要因(平成30年度の内訳。重複あり。)

<小学校不登校児童39人の内訳>

① いじめ	0	人
② いじめ以外の友人関係	16	人
③ 教職員との関係	0	人
④ 学業不振	9	人
⑤ 進路に係る不安	3	人
⑥ クラブ・部活動不適應	0	人
⑦ 学校のきまり等の問題	1	人
⑧ 入転入学進級の不適應	4	人
⑨ 家族に係る状況	12	人
⑩ その他	9	人

<中学校不登校生徒83人の内訳>

① いじめ	0	人
② いじめ以外の友人関係	15	人
③ 教職員との関係	1	人
④ 学業不振	15	人
⑤ 進路に係る不安	1	人
⑥ クラブ・部活動不適應	3	人
⑦ 学校のきまり等の問題	1	人
⑧ 入転入学進級の不適應	7	人
⑨ 家族に係る状況	11	人
⑩ その他	4	人

備考

- ⑨…夫婦不仲・親子関係不仲・母親不安定・母子分離できない・外国籍 など
- ⑩…上記①～⑨のどれにも当てはまらないもの・要因が不明な場合 など

飯田市における不登校対策

5つのアクション

飯田市教育委員会

《教育支援指導主事の配置》

- 対象となる児童生徒の状況に寄りそう指導の実現のための教育支援指導主事の配置
 - ・ 学校のワクを越えた柔軟な指導の研究的実践
 - ・ 児童生徒一人ひとりの登校への意識の涵養

《体験学習活動の実施》

- 地育力を生かした体験学習活動の設定による自立を促し、自立を支える指導の具体的実践
 - ・ 地育力を生かしたキャリア教育を基盤とした個に応じた弾力的な企画
 - ・ 農家、酪農家、会社、商店、一般家庭等と学校と家庭との連携のあり方の工夫

《カウンセリングマインド研修会の実施》

- カウンセリングマインドを生かした、時と場所に適した「声をかけ、目をかけ、手をかけ、心をかけることができる実力のある教師」の育成
 - ・ 全職員参加によるカウンセリングマインド研修会の実施
 - ・ 通常学級における特別支援教育の実施と学級づくりの強化

《学校独自の選択的対策の実施》

- 学級の編成替え、小学校高学年における教科担任制の導入、学校独自の間教室の設置等、実態に応じた改善策の選択的実施
 - ・ 小学校2年、4年と中学校1年時点での学級の編成替えの実施
 - ・ 交換授業→専科の拡大→教科担任制の段階的実施

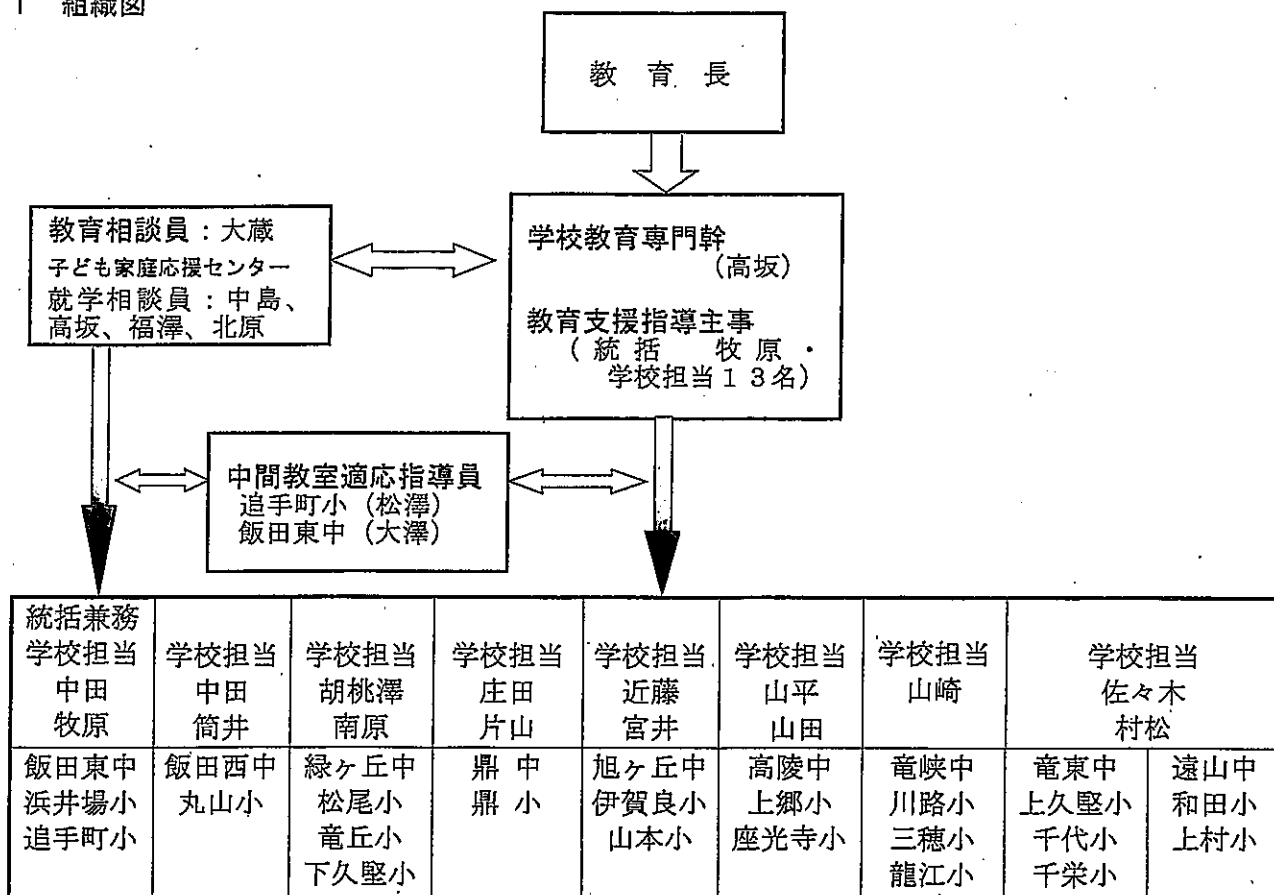
《連携事業の効果的な実践》

- 中学校区小中連携、幼保小の連携、子どもサポート会議等の連携事業がさらに効果を上げるための創意工夫
 - ・ 対象の児童生徒、家庭に響いていく実践
 - ・ 家庭の絆を深める「結いタイム」の拡充

平成31年度 教育支援指導主事（学校担当）・教育相談員の組織図及び主な業務

飯田市教育委員会

1 組織図



2 業務分掌

教育相談員（教育相談）	教育支援指導主事（統括）	中間教室適応指導員
教育相談全般 ○保護者等からの電話相談・面談 ○「子どもサポート会議」・「飯田長欠ネットワーク協議会」や研修会の企画・運営 ○要対協 ○就学判断・相談業務への協力 ○初任研、キャリアアップ研	小中連携・一貫教育の推進 小中学校教育課題等への支援 ○学校教育専門幹との連携 ○不登校対策（5つのアクション） ○長期欠席調査 実施・集計・考察 ○支援連絡会の企画・運営 ○生徒指導担当者研修（不登校等） ○学校訪問 ○学校支援 ○要対協	不登校児童生徒への支援 ○不登校児童生徒の支援・指導 ○保護者との連携・支援 ○在籍校との連携 <出欠席について> ・校長判断で指導要録、出席簿、諸調査ともに出席扱い
教育相談員（就学相談）	教育支援指導主事（学校担当）	
就学判断・相談業務全般 ○就学相談及び助言 ○障害児童生徒への就学支援 ○就学指導委員会 ○特別支援コーディネーター・特別支援教育支援員の指導 ○幼保園・学校訪問（相談・支援） ○要対協（実務者会議）	小中連携・一貫教育の推進 中学校区教育課題への支援 ○校長、教頭、教職員への支援 （学力向上・授業づくり・ICTの活用、不登校・学級不適応・問題行動の改善等） ○連携・一貫教育に係わる児童生徒への支援 ○不登校児童生徒、保護者への支援	

児童生徒への登校支援

～未然防止・早期対応をすすめるために～

飯田市教育委員会

すべての学校・教室で以下の取り組みを具体的にすすめましょう。

1 不登校に関する基本的な考え方 全教職員で確認

- 心の問題だけではなく、社会的自立・生涯の問題 → 相談・支援・情報提供等を行う
- 関係機関と連携して支援 → 学校だけで抱え込まない
- すべての子どもが楽しく通える学校づくり
- 「ただ待つだけ」では、状況の改善はあり得ないことを認識
- 保護者への支援と働きかけは不可欠

2 登校渋りや不登校への基本的な対応 組織的に全教職員で実践

- ① 欠席連絡を丁寧に聞き取る電話対応の継続
 - ・ 欠席理由、体調、欠席に至る状況等を丁寧に聞き取り、登校の見通しを明確に
 - ・ 「しばらく様子を見る」ことは、不登校を長引かせるという共通理解
- ② 毎日の欠席者を確認し、組織的な対応・・・長欠者の情報を学校と教委が共有
 - 2～3日の欠席 → 養護教諭、支援主事と連携し、担任や学年で家庭訪問
 - 7日連続欠席 → 校長・教頭による保護者面談
- ③ 不登校対策委員会等での協議による学校としての判断、関係機関へのつなぎ
 - ・ 不適応傾向、登校渋り段階で協議、早期対応に努める。
 - ・ 教育支援指導主事との連携
 - ・ カウンセラー、中間教室等につないだケースが、再登校につながっているか → 任せっぱなしにせず、関係機関も含め、その後の対応をする。
 - ・ 複雑な要因によるもの → こども家庭応援センター、児童相談所、医療機関、SSW等と連携した取り組みも検討

3 きめ細かく、柔軟な個別・具体的な取り組み

- ① 柔軟な校内組織・・・発達課題・不登校コーディネーター等、実態に即した組織づくり
- ② 資質向上・・・発達特性、精神医学、虐待、ひきこもり等の事例研修は不可欠
- ③ 情報共有・・・個別指導記録による共有（個別支援計画、支援シート等）
- ④ 即対応、見とどけの継続・・・かかわり続ける。不登校生も、自校の在籍児童生徒
- ⑤ 柔軟な受け入れ体制・・・児童生徒の立場に立った居場所、学級、転校等

4 主なチェック項目（例）

- 早期対応 → 2～3日の欠席の家庭訪問
連続7日欠席時の校長・教頭の保護者面談
- 組織的対応 → 担任、学年会、教育支援指導主事任せになっていないか
校内の不登校対策委員会等で動いているか
- 教育支援指導主事等の活用 → 「様子を見ましょう」のままになっていないか
- 情報共有の方法 → 欠席・支援の状況、客観的な評価の共有、共有の場の確保
- スモールステップの設定と評価 → 校外関係者・機関と連携した支援
時には本人・保護者を交えたケース会議を



夏 たいけん活動

みんなおいでよ!

【主催】飯田市教育委員会

【引率】教育支援指導主事

《しぜんの中で あそぼう》

- 1 期 日 令和元年8月6日(火)
- 2 場 所 遠山郷(飯田市南信濃 天仁の杜・公民館)
- 3 日 程 飯田市役所集合 → バス乗車/発 → 天仁の杜/着 → 川遊び(魚つかみ取り) →
8:15 8:30 10:00 10:15~12:00
屋食(五平餅・川魚の塩焼き) → 天仁の杜/発 → 南信濃公民館/着 → ものづくり講座 →
12:00~13:30 13:30 13:35 13:40~15:00
バス乗車/発 → 飯田市役所/着・解散
15:15 16:45
- 4 ものづくり講座 ① 藤つる講座 ② 木工・革細工講座 (①/②のどちらかを選んでください)
- 5 持ち物 水筒 水着か濡れてもよい服装 帽子 タオル 軍手 お皿 はし
- 6 参加費用 魚つかみどり(屋食用) やまめ250円 ・ 五平餅250円 ・ 焼き場使用料200円
ものづくり講座費用 ①藤つる講座 1,000円 ② 木工・革細工講座 700円

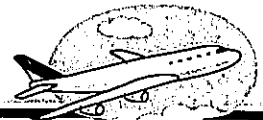
A



《ふしぎのせかいへ いこう》

- 1 期 日 令和元年8月6日(火)
- 2 場 所 エス・パード(旧飯田工業高校)
- 3 日 程 エス・パード集合 → 体験講座(飛行機シュミレーター・バーチャル体験博物館) →
9:15 9:30~11:30
屋食(弁当) → ものづくり講座(サイエンスショー・ホバークラフトづくり) → 解散
11:30~13:00 13:00~15:00 15:15
- 4 ものづくり講座 ホバークラフト講座 (電池もモーターも使わない。床の上をスーと走らせよう。)
- 5 持ち物 水筒 弁当 タオル
- 6 参加費用 ホバークラフト材料費 100円

B



- 7 その他 (1) 子どもさんの様子から、親子同伴での参加も可能です。同伴の場合は、参加申込書の(数・人数)に加えてください。
(2) 安全・安心のために、保険に加入しています。
(3) 参加費用は、参加申込書に添えて、7月18日(木)までに各校の教育支援指導主事に提出してください。
(4) ご質問やご相談がありましたら、各校の教育支援指導主事か、飯田市教育委員会 学校教育課(牧原)までご連絡ください。

飯田市教育委員会 学校教育課
電話 0265-22-4511 (内線)3722



夏 たいけん活動 参加申込書

1 参加者

学校名 _____ 学校 _____

学年 _____ 年 _____ 氏名 _____

2 参加体験と希望講座

A

《しぜんの中で あそぼう》

- ◆魚つかみ・屋食 やまめ 250円 × () 匹 = () 円
五平餅 250円 × () 本 = () 円
焼き場 200円 × () 人 = () 円
- ◆ものづくり講座 ① 藤つる 1,000円 _____ → () 円
【選択】 ② 木工革細工 700円 _____

参加費用合計 () 円

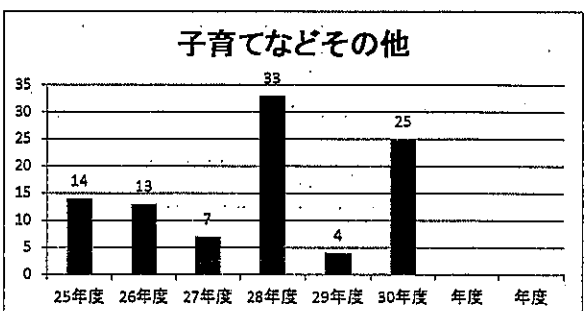
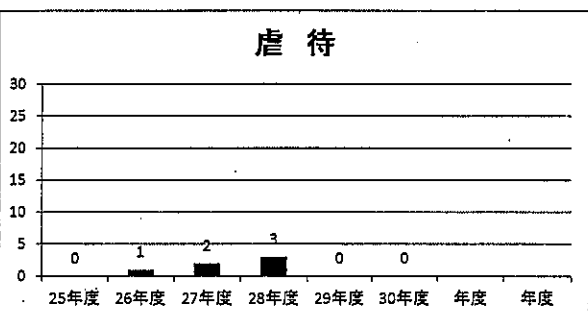
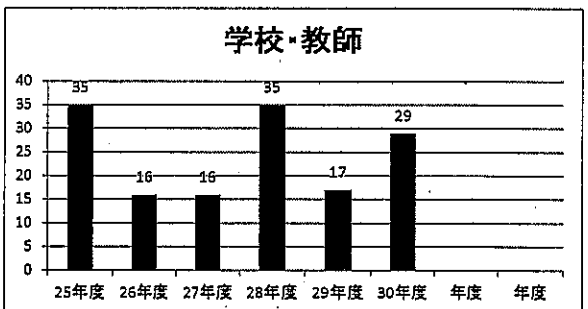
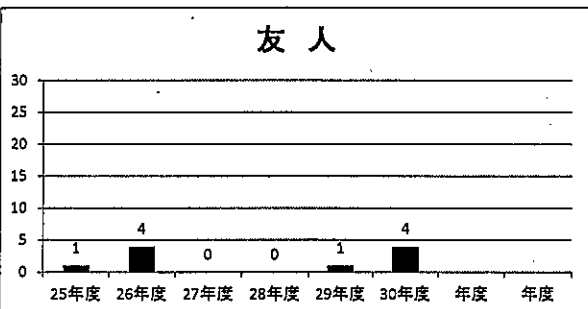
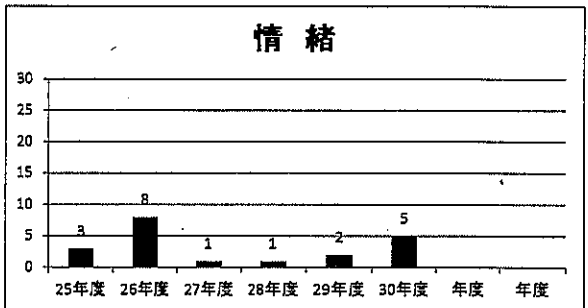
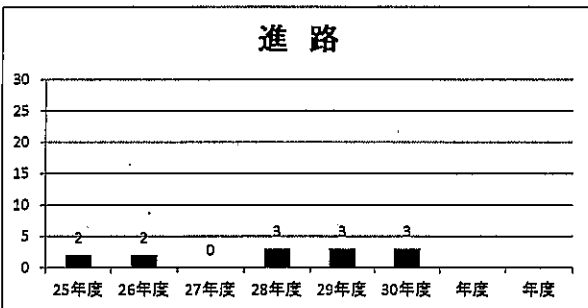
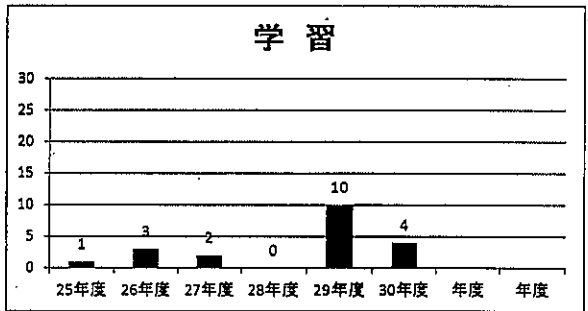
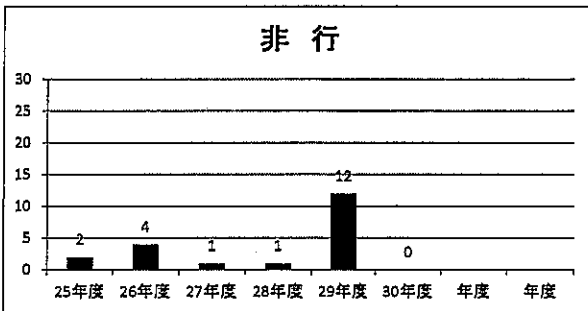
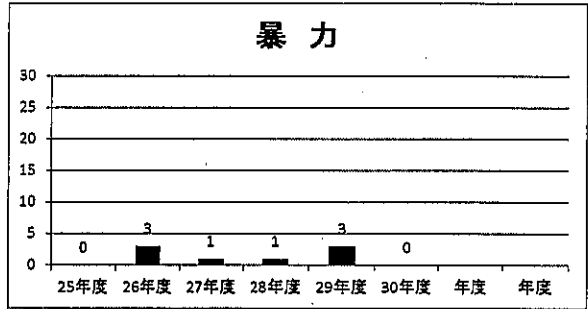
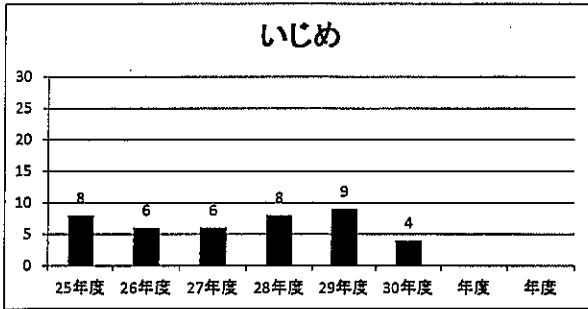
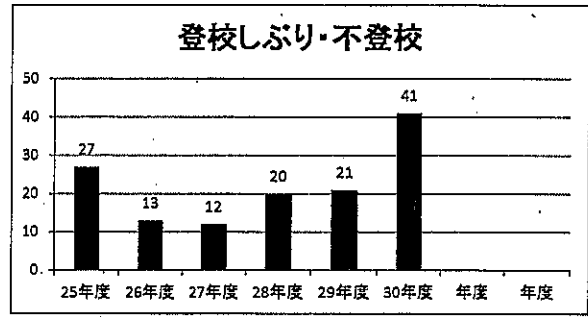
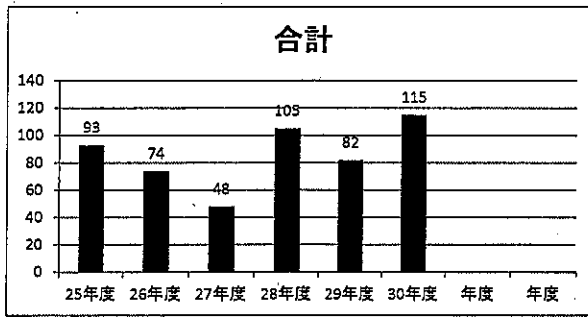
B

《ふしぎのせかいへ いこう》

- ◆屋食 【弁当持参】
- ◆ものづくり講座 ○ ホバークラフト
100円 × () 人 = () 円

参加費用合計 () 円

※ 参加する体験に、合計金額を記入します。



中間教室5年間の年度毎通室人数の推移

(単位:人)

区分	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30
追手町小学校 フレンドリールームなかよし	6	3	3	3	6
飯田東中学校 フレンドリールームやすらぎ	1	6	3	2	3
計	7	9	6	5	9

